

寒冷地形談話会通信 1979年 7月

〔7月例会についで〕町田 洋 先生〔都立大〕から、北アルプス周辺の段丘にまつわるいくつかの話題をうかがった。内容は、以下の通り。

1) 段丘の形成と関係する最終氷期の気候変化史における問題点。

① 最終氷期の新しい方の寒冷期の時代が2万年前後であることは、ほとんど疑う余地がないが、古い方の寒冷期の時代はまだよくわからずにいる。最近の海底や氷床コアのδDのカーブでは、7万年前ごろの寒冷期が、それにあたるとされているが、ほんとうか？ 南関東などでは、むしろ5万年前ごろに大きな海面低下期がある。

② 2万年前頃の寒冷期と古い方の寒冷期とは、どちらが寒冷であったか？

δDのカーブでは、2万年前の方が寒冷とされているが、ハワイや南米の氷河地形からは、古い方が寒冷であったようにも考えらる。

2) 日本アルプス周辺の段丘の編年に役立つ鍵テフラ層がかなり増えた(図1-18と図1-17)。

DKP(大山倉吉バミス)は、他のテフラとの関係で4.2-4.8万年前ごろの噴出であることはまちがいない(しかし、Pm IVとの関係はまだ不明)。立山EPmは、立山火山III期のPumice fallで6万年前±1万年。立山DPmは、立山火山II期のPumice fall。Pm Iより古い。

3) 立山における氷河編年。

1978年秋に立山室堂～美松付近を調査した結果、室堂礫層の下位にくる雷鳥台礫層のスコリア質火砕岩相(深井, 1975)はEPmであることがわかった。また室堂礫層の上位は美松級礫岩とあってDKPが

発見された。このゆえ、室堂礫層（おやら (Glacial till)）の堆積期は5万年前ごろであろう。

4) 北アルプス周辺の河川の堆積期 (図1-18)。

1978年夏、北アルプスの周辺をざっと見てあるいた。段丘の全体的な
常盤寺川・梓川・^{アラス}鳥川 (図1-21) など、テフラと礫層との関係が明瞭
にわかる。まとめると、堆積段丘には、ATをのせていたリゾ層の上部
に^{ATE}含むものと、DKPをのせているもの、およびもっと古いもの (10万年前
より古いらしい) とに分けられる。つまり、北アルプス周辺の堆積段丘
には、5万年前^と2万年前^とに形成されたものは、^{テフラとこれら}氷河の前進期と
うまく対応している。しかし、北アルプス周辺には、まだ調べられて
いない河川がいろいろあり、今後の調査が期待される。たとえば、黒部
川 (宇奈月周辺、上流下流高い段丘など)・早月川・中央アルプス北
部・荒川岳周辺など……。

〔文章：岩田〕

〔夏の学校について〕 この前、お知らせしたように、8月23日～27日に飯
豊連峰で開かれることがすでに決定してあります。参加予定者は現在
のところ15名です。小荷物ですが、寝具・炊事具・食糧などは用意し
なければなりませんので、参加希望者はなるべく早く、相馬または岩田
まで御連絡ください。8月10日以後は相馬まで。

〔9月例会について〕 9月中旬ごろ東大で開く予定。発表者には、
小野有彦氏 (アルプスの周氷河地形) ほかを予定しています。

(暑い夕夏シーズンも！)